

交通シミュレーション講演会（九州ブロック）

交通シミュレーションに関するアンケート調査 概略結果報告資料

社団法人 交通工学研究会
交通シミュレーショングループ（九州ブロック担当）

2006/04/14



1

①アンケート調査の概要

■ 調査目的

- 今後の交通シミュレーション普及活動に向けた参考データ取得

■ 調査日およびアンケート票回収日

- 調査日：平成18年9月15日（金）
- 講演会受付で配布、会場で当日回収
- 配布票：入場者すべてに配布、回収票：93票

2006/04/14



2

①アンケート調査の概要（調査票）

HI&9.15 交通シミュレーション調査会(九州ブロック)

「交通シミュレーションに関するアンケート調査」へのご協力のお願い

本日は、講習会にご参加いただきありがとうございます。
 大変お手数ではございますが、以下のアンケートにお答えください。
 調査結果は、今後の交通シミュレーション普及活動の参考にさせていただきます。
 (記入していただいたアンケート票は、休憩時間またはお帰りの際にご提出ください)

【アンケート調査票】

1. あなたの年齢・御所属先・担当業務についてお聞かせします。

【年齢】 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60歳以上
【所属先】 1. 大学関係者 2. 行政関係者(国) 3. 行政関係者(地方自治体) 4. 公団関係者 5. 公益法人等 6. 建設会社 7. コンサルタント会社 8. 学生 9. その他()
【担当業務】 1. 企画・計画 2. 設計 3. 建設 4. 維持 5. 研究 6. その他()

2. 交通シミュレーションに対する印象についてお聞かせします。
 あなたが交通シミュレーションに対して抱いている印象について、次の設問にお答えください。
 (各設問について、最も近い選択肢を直線○印で)

- 交通シミュレーションという言葉を知ったことが(あった なかった)
- 交通シミュレーションがどのようなものであるか(知っていた 知らなかった)
- 時々刻々と変化する交通渋滞状況などを解析するためには、交通シミュレーションが有用であることを(知っていた 知らなかった)
- 交通シミュレーションを業務や研究で活用することに(興味がある 特に興味はない)
- 交通シミュレーションを実際に(使っていた 使っていない)

3. 交通シミュレーションの適用経験についてお聞かせします。
 今まであなたが取り扱った業務・研究のうち、交通シミュレーションを使用したことのある分野*をお答え下さい。(経験のある全ての分野の番号を○印) ※交通シミュレーション適用分野は、本票の右下を参考

- 局所渋滞対策 2. 都市交通施設整備 3. 商業施設・イベント対策
- ITS・新技術評価 5. TDM・流入規制 6. 交通規制 7. 道路網計画・評価
- その他() 9. 適用したことがない

4. 交通シミュレーションを適用する際の問題についてお聞かせします。
 現時点で、交通シミュレーションを適用する際の問題となっている問題、もしくは、適用したときの問題をお答えください。(該当する全ての番号を○印)

- 交通シミュレーションをどのように適用すべきか分からない
- 交通シミュレーションに関する情報が足りない
- データの取得に問題がある(効率的にデータが取得できない 等)
- 作業費用がかかりすぎる
- 信頼性が低い
- その他()

以上で終了です。ご協力、ありがとうございます。

***** 参考 *****

設問内の交通シミュレーション適用分野は、以下を参考して下さい。

- 局所渋滞対策 → 車路部の改良(平面線形の改良、サグ・クレスト部の改良、追い越し車線整備等)、交差点の改良(交差点立体化、右左折専用車線の整備、信号制御方式の変更等) 等
- 都市交通施設整備 → 駅・交通広場の整備に伴う評価、駐車場・荷降き施設の評価、バスレーン導入評価 等
- 商業施設・イベント対策 → 大規模店舗等の施設立地に伴う交通アクセスメント、イベント開催(マラソン、祭り等)に伴う交通アクセスメント 等
- ITS・新技術評価 → ETC導入評価、AHS導入評価、経路誘導評価、PTPS導入評価 等
- TDM・流入規制 → 車庫手続の組み合わせ利用(パークアンドライド等)、交通需要の低減・平準化(ノーマイカーデー、無差出庫、フレックスシステム等)、適切な交通利用の誘導(コミュニティ道路、トランジットモール等)、ロードプライシング 等
- 交通規制 → 道路工事に伴う交通規制の評価、交通規制に伴う迂回経路の検討 等
- 道路網計画・評価 → 高速道路整備計画、一般道整備計画(バイパス、拡幅事業等)、街路整備計画(都市計画道路、地区開発道路等) 等
- その他 → 災害時におけるネットワーク評価、車庫以外のモードのシミュレーション(LRT・路面電車・人・自転車等)、環境評価シミュレーション(大気汚染、騒音、地球温暖化) 等

調査主体：(社)交通工学研究会
 当アンケートに関するお問い合わせは、講習会事務局(受付)までお願いいたします。

2006/04/14

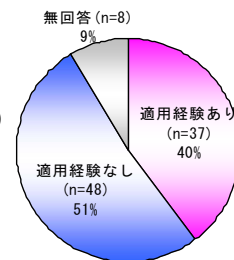
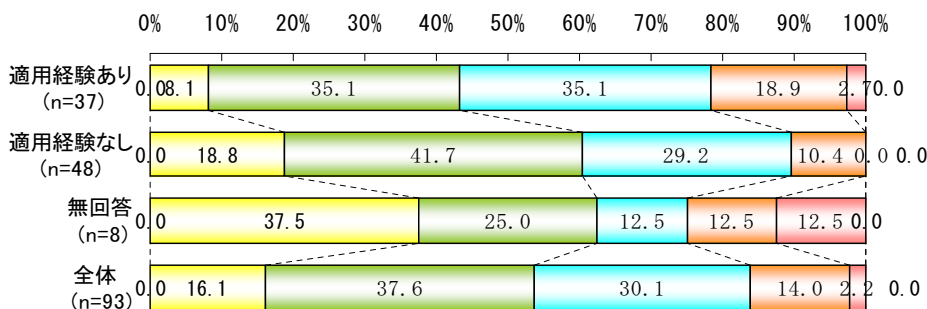
3

②アンケート調査結果

1. あなたの年齢・御所属先・担当業務についてお聞かせします

回答者の年齢は、『30代』(37.6%)が最も多く、次いで『40代』(30.1%)、『20代』(16.1%)、『50代』(14%)となっている。

『適用経験あり』では『30代』『40代』(37.1%)がともに高く、『適用経験なし』では『30代』(41.6%)が最も多い。



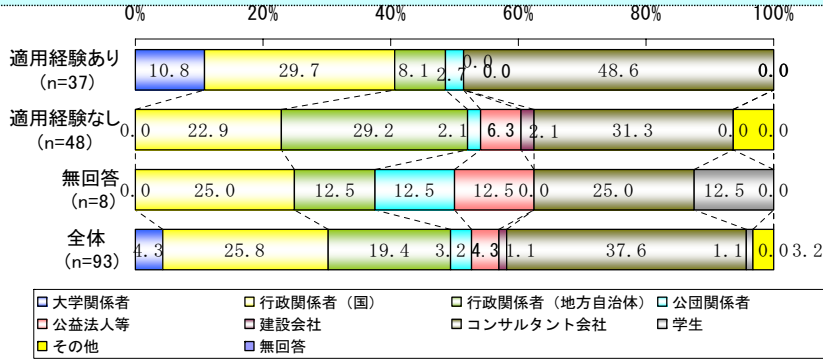
■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60歳以上 ■ 無回答

2006/04/14

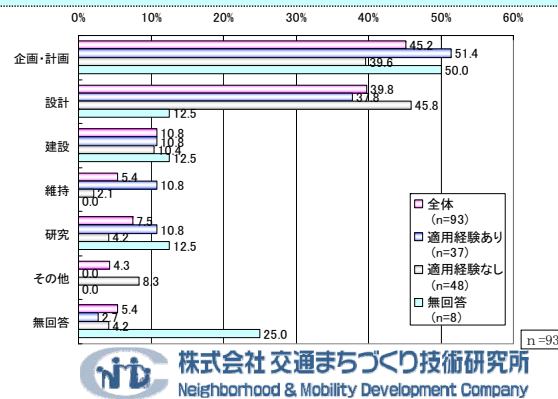
4

回答者の所属先は、『コンサルタント会社』(37.6%)が最も多く、次いで、『行政関係者(国)』(25.8%)となっている。

『行政関係者(国)』は、適用経験ありがなしを上回るが、『行政関係者(地方自治体)』は適用経験なしが多い。



回答者の担当業務は、『企画・計画』(45.2%)が最も多く、『設計』(23.3%)がこれに次ぐ。『企画・設計』や『建設』、『維持』、『研究』では、『適用経験あり』がなしを上回る。

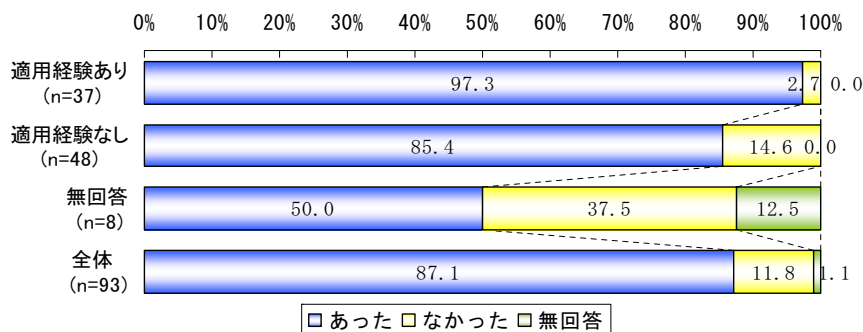


2006/04/14

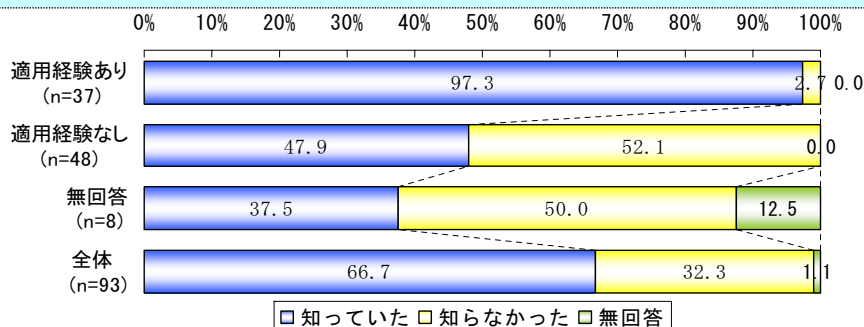
5

2. 交通シミュレーションに対する印象についてお聞きします

1. 交通シミュレーションという言葉聞いたことが『あった』(87.1%)『なかった』(11.8%)



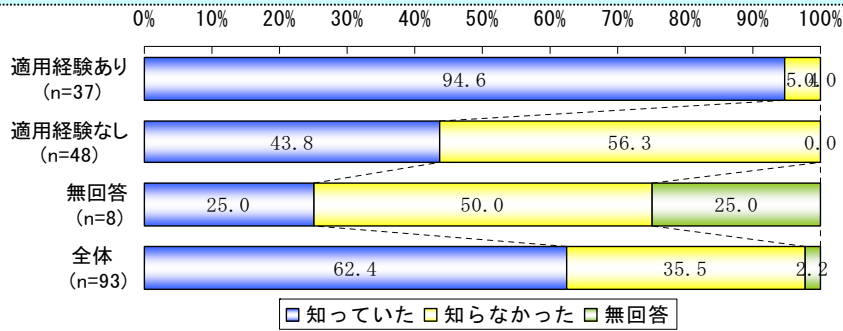
2. 交通シミュレーションがどのようなものであるか『知っていた』(66.7%)『知らなかった』(32.3%)



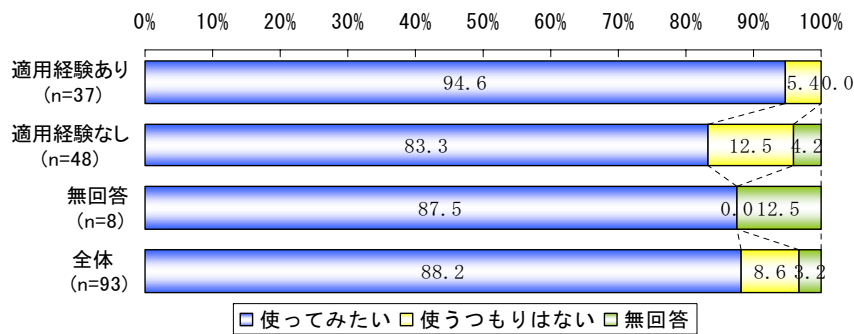
2006/04/14

6

3. 時々刻々と変化する交通渋滞状況などを解析するためには、交通シミュレーションが有用であることを『知っていた』(62.4%)『知らなかった』(35.5%)

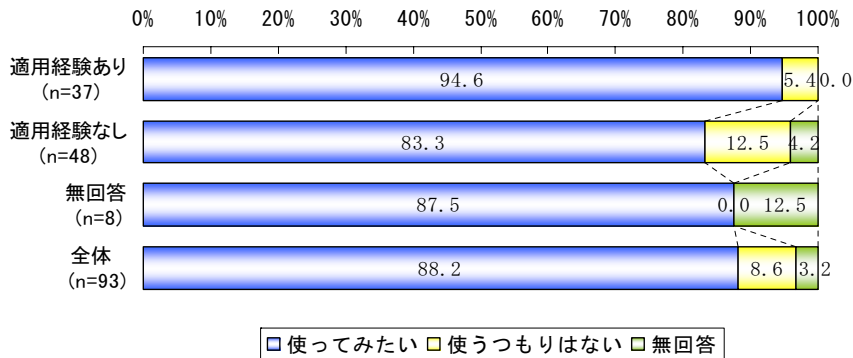


4. 交通シミュレーションを業務や研究で活用することに『興味がある』(88.2%)『特に興味はない』(8.6%)



2006/04/14

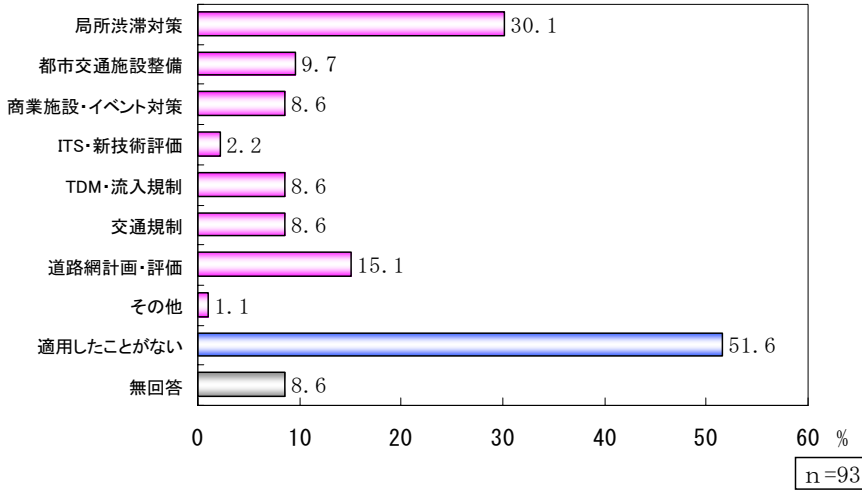
5. 交通シミュレーションを実際に『使ってみよう』(88.2%)『使わない』(8.6%)



2006/04/14

3. 交通シミュレーションの適用経験についてお聞きします

『適用したことがない』(51.6%)が最も多く、次いで、『局所渋滞対策』(30.1%)、『道路網計画・評価』(15.1%)、『都市交通施設整備』(9.7%)となっている。

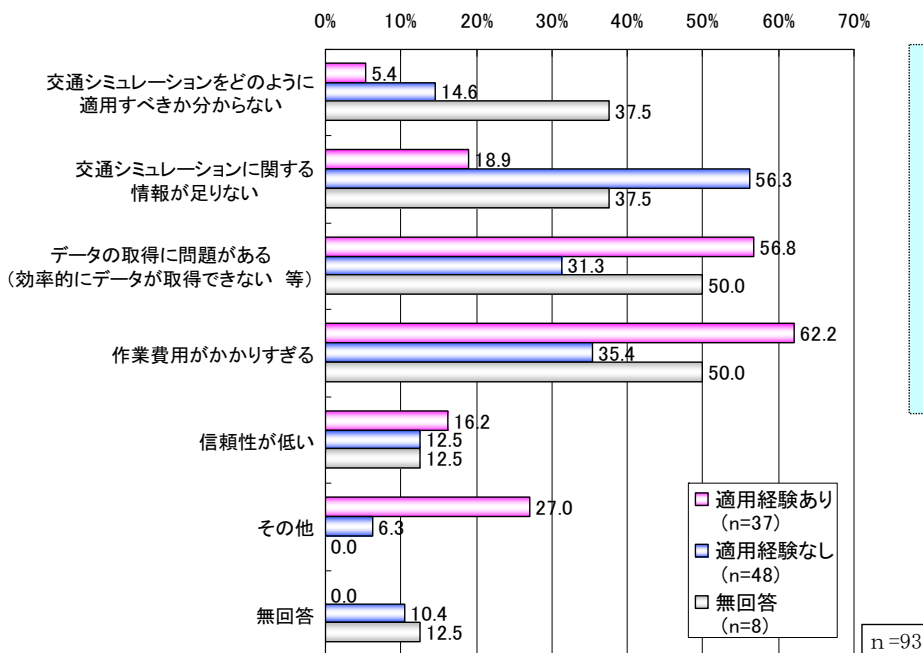


項目	内容
1. 局所渋滞対策	単路部の改良(平面線形の改良、サグ・クレスト部の改良、追い越し車線設置等)、交差点の改良(交差点立体化、右左折専用車線の整備、信号制御方式の変更等)等
2. 都市交通施設整備	駅前・交通広場の整備に伴う評価、駐車場・荷捌き施設の評価、バスレーン導入評価等
3. 商業施設・イベント対策	大規模店舗等の施設立地に伴う交通アセスメント、イベント開催(マラソン、祭り等)に伴う交通アセスメント等
4. ITS・新技術評価	ETC導入評価、AHS導入評価、経路誘導評価、PTPS導入評価等
5. TDM・流入規制	複数手段の組み合わせ利用(パークアンドライド等)、交通需要の低減・平準化(ノーマイカーデー、時差出勤、フレックスタイム等)、適切な交通利用の誘導(コミュニティ道路、トランジットモール等)、ロードプライシング等
6. 交通規制	道路工事に伴う交通規制の評価、交通規制に伴う迂回制御の検討等
7. 道路網計画・評価	高速道路整備計画、一般道整備計画(バイパス、拡幅事業等)、街路整備計画(都市計画道路・地区関連道路等)等
8. その他	災害時におけるネットワーク評価、車両以外のモードのシミュレーション(LRT・路面電車・人・自転車等)、環境評価シミュレーション(大気汚染、騒音、地球温暖化等)等

2006/04/14

9

4. 交通シミュレーションを適用する際の問題についてお聞きします



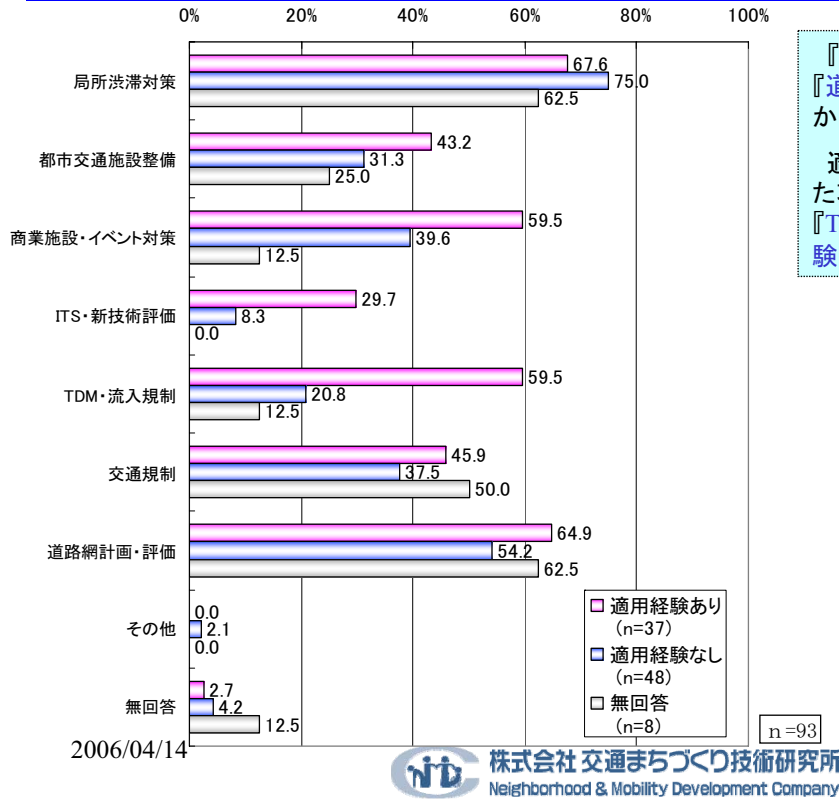
『適用経験あり』では、『作業費用がかかりすぎる』(62.2%)が多く、次いで『データの取得に問題がある』(56.8%)、とする回答が多い。

『適用経験なし』では『交通シミュレーションに関する情報がない』や『作業費用がかかりすぎる』、『データの取得に問題がある』の比重が高い点に特徴がある。

2006/04/14

10

5. 交通シミュレーション適用の必要性・ニーズについてお聞きします

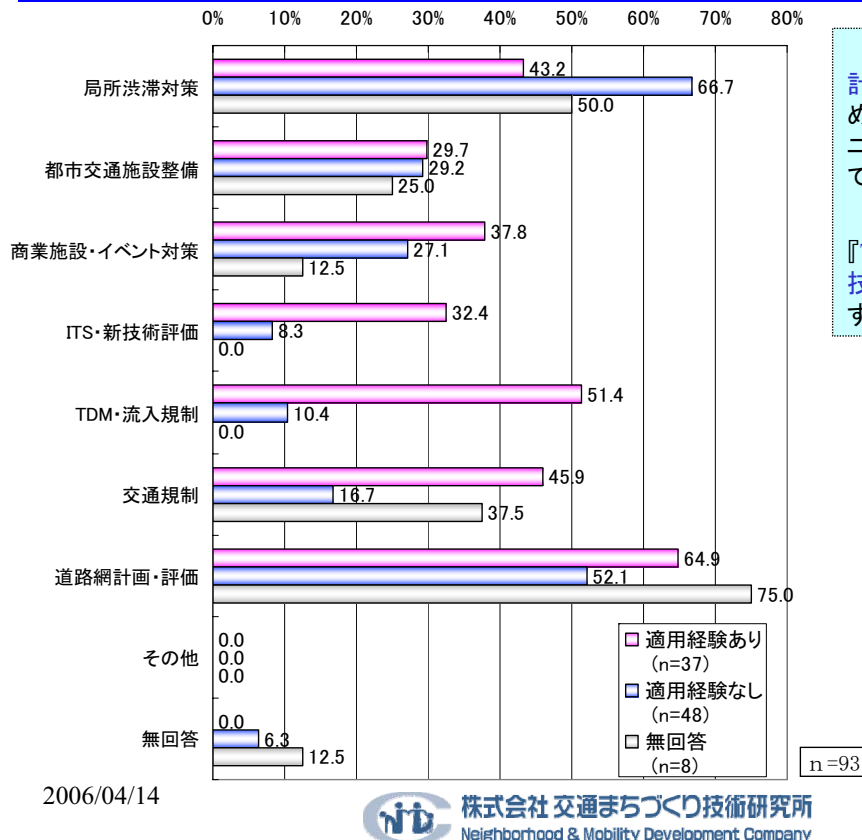


『局所渋滞対策』が最も多く、次いで、『道路網計画・評価』という回答が多かった。

適用経験の有無別で差が大きかった項目は、『ITS・新技術評価』と『TDM・流入規制』で、ともに『適用経験あり』が多くなっている。

11

6. 交通シミュレーションの取り組み意向についてお聞きします



『局所渋滞対策』、『道路網計画・評価』が高い比重を占める。これらの項目は、必要・ニーズでも上位を占める項目である。

また、『適用経験あり』では『TDM・流入規制』や『ITS・新技術評価』、『交通規制』に対する取り組み意向も多い。

12

補遺. 自由意見

○アンケート回答者93名の26%にあたる24名が自由意見を記載

○課題(8)に関する意見が多い。(以下、期待・要望(4)、提案・疑問(3)、感想・その他(1)の順)

○課題では、シミュレーションの精度がどの程度のものなのか、その信頼性についての意見が多かった。また、インプットデータの取得・シミュレーションの検証・調整にかかるコストを指摘する意見が多かった

○期待・要望では、交通シミュレーションについての情報をもっと知りたいという意見が多かった。具体的には、信頼性(今までの事例のマッチング率)・かかる費用や時間など。また、ひとつのシミュレーターに絞って詳しい説明会を開いて欲しいとの意見もあった

○提案では、モデルと表現の開発を分けたらどうか、一般的に広く使えるような実用化の提案など、積極的な意見がみられた

○疑問では、シミュレーションの手法による違いはどうか、現況再現性のチェック方法、ソフトと適用分野との相性はどうか、などの意見があった

今後の普及・啓発活動の課題

交通シミュレーションの認知の段階はほぼ過ぎ、本格的な利用の段階の入口まできた。

今後は、具体的なソフトの利用方法の紹介やコストの低廉化など、
敷居を低くするための取り組みに力点をおく

2006/04/14

13

自由意見

分類	回答内容
期待	・交通シミュレーションの利用増・普及
	・インプットデータの簡便化
	・ニーズにあった、安価な使いやすいシミュレーションソフトの整備
提案	・モデルの開発(根幹部分)とアニメーション部分は分けた方が望ましいのでは?
	・今発生している状況に対して、ある変化をさせた場合にどうなるかを知り、それが良好ならば直ちにシステムに反映させたい。iモードのように月額数百円程度でオープンにすれば利用者は一般、市民にも増え、課題解決の道につながるだろう
	・現地の作業条件の違いにより、渋滞状況を簡易(安く)に判断するシステムがあると使えるのでは?
要望	・シミュレーション結果の信頼性がどの程度のものなのか知りたい
	・どれか一つのシミュレーターにしぼって詳しい説明会を別途考えてほしい
	・今までの事例での整合性がどの程度マッチングしているのかの事例を多く教えて欲しい
課題	・分割配分や均衡配分と比べ、どのくらい費用がかかるのか、コスト削減は図れないのか、また、結果がでるまでどのくらいの時間がかかるのかを知りたい
	・検証と調整をいかに近づけるかに体力を使う
	・シミュレーションの精度と信頼性
疑問	・インプットデータ取得のコスト
	・ビジュアルで大変理解しやすくなる分、一般の方はこれを信じてしまうことがある。シミュレーションは、あくまで推量であることを理解しておくことが必要
	・シミュレーションの手法にばらつきがあるのか?
感想	・現況再現をする時に混雑の発生していないところの再現をどのようにしたものかチェックしたら良いのか?
	・ソフトと適用分野の相性が、どのケースにどのソフトが有効であるかが不明
	・交通シミュレーションの種類が多く、またプログラムがブラックボックスであるため、何を信頼して選ばよいか分からない
感想	・研究で差分法を使った地震波のシミュレーションを行っており、たまたまホールの外の案内をみて「シミュレーション」というタイトルにひかれ入場した。「シミュレーション」という共通の土台で相通じるものがおく、大変興味深く聴かせていただいた

2006/04/14

14

パンフレット

交通シミュレーション講習会(福岡)

開催のご案内

～交通シミュレーション適用のススメ～

交通シミュレーションは、時々刻々と変化する交通現象を解析し、旅行時間や渋滞長、交通状況のアニメーションなど、一般的にイメージしにくい指標で定量的な評価する解析ツールであり、近年は住民参加型交通計画等における合意形成支援ツールとしての活用も広がっております。

道路交通計画の実務では、主に局所的な渋滞対策や商業施設対策等の検討に運用されていますが、TDM/ETC、都市交通施設整備など多様な交通政策・運用策にはまだまだ適用が少ないのが現状です。

本セミナーは、交通シミュレーションの歴史や国内における適用事例などを紹介し、道路交通計画の実務において積極的な適用を期待するものです。

- 日 時:平成 18 年 9 月 15 日(金) 12:30～受付開始
- 会 場:エルガーホール (福岡市中央区天神 1-4-2)
http://www.elgahall.co.jp/index.php
- 主 催:社団法人 交通工学研究会
- 後 援:警察庁、国土交通省、福岡県、福岡市、九州大学、熊本大学、九州工業大学、福岡大学、九州産業大学、(社)土木学会西部支部 (社)日本都市計画学会九州支部、(社)建設コンサルタント協会九州支部
- 参加費:2,000 円(配布資料代)



プログラム (内容・講師は若干の変更がある場合もございますのでご了承ください)

- 13:00 開会挨拶
外井 智志:九州大学 大学院 工学研究院環境都市部門 助教授
- 13:10 「交通シミュレーションの歴史と開発動向」
森津 秀夫:筑造科学大学 情報学部 経営情報学科 教授
- 13:50 「国内における交通シミュレーションの適用事例」
飯田 祐三:(株)交通まちづくり技術研究所 代表取締役
- 14:30 (休憩)
- 14:40 「国土交通省における交通シミュレーションの現状と展望」
平沢 勝之:国土交通省 国土技術政策総合研究所 高度道路交通システム研究室
- 15:10 「警察における交通シミュレーションの現状と展望」
阿部 利典:福岡県警本部 交通部 交通規制課 管制担当管理官
- 15:40 「九州における交通シミュレーションの現状と課題」
瀧上 軍志:熊本大学 大学院 自然科学研究科 環境共生工学専攻 教授
- 16:20 閉会挨拶
森津 秀夫:筑造科学大学 情報学部 経営情報学科 教授

- 申込 方法:以下の内容を明記の上、電子メール又はFAXにてお申し込みください。
1.参加者氏名、2.連絡先、3.連絡先(電話、メール)
- 申込 先:電子メール: sem@yaku@nhd.co.jp FAX:(社)交通工学研究会 小松有(09-3014-782)
- お問 合 せ:(社)交通工学研究会 交通シミュレーショングループ九州九州福岡事務局
株式会社 福山コンサルタント(福岡・倉庫・北宮)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅前3-6-18
電子メール:sem@yaku@nhd.co.jp 電話:092-471-1417

本講習会は、土木学会CPOプログラムとして認定されています。
「継続教育記録簿」(ログブック)をお持ち下さい。会場にて、受講(参加)の証明スタンプを押印します。

2006/04/14

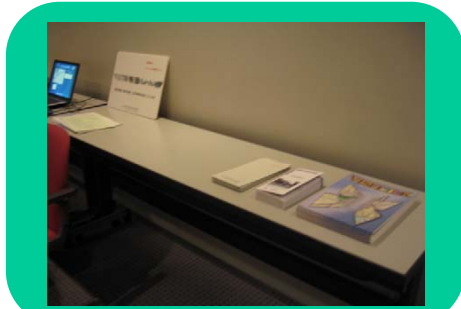


15

講演会とデモンストレーションの様子



講演会の様子



当日配布用パンフレット

2006/04/14



16